

4 中学校 美術科 問題用紙

(3枚のうち1)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

1 次の1～3に答えなさい。

1 次の(1)～(6)は、日本と西洋の建造物を示したものです。(1)～(6)に当たる最も適切な建築様式を、それぞれ下の(ア)～(ク)の中から選び、その記号を書きなさい。

(1)

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(2)

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(3)

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(4)

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(5)

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(6)

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(ア) 寝殿造	(イ) 権現造	(ウ) 大社造	(エ) 神明造
(オ) ギリシア建築	(カ) ロマネスク建築	(キ) バロック建築	(ク) ゴシック建築

2 次の(1)～(3)は、美術に関する用語です。これらの用語は、それぞれどのようなことを表していますか。簡潔に説明しなさい。

(1) 減法混色 (2) 補色 (3) フロッタージュ

3 次の工程は、緋襷の技法を用いた備前焼をつくる工程を表しています。(1)～(4)にあてはまる最も適切な語句を、それぞれ下の(ア)～(カ)の中から選び、その記号を書きなさい。

採土 → (1) → (2) → (3) → (4) → 焼成

(ア) 施釉	(イ) 成形	(ウ) 下絵付け	(エ) 乾燥	(オ) 土練り	(カ) 藁を巻く
--------	--------	----------	--------	---------	----------

4 中学校 美術科 問題用紙

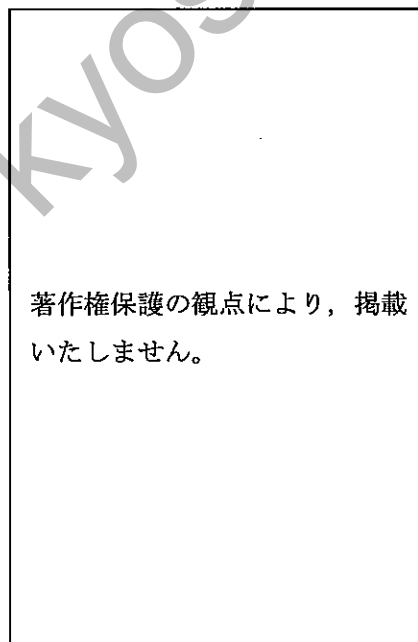
(3枚のうち2)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

- 2 第3学年において、商品のパッケージデザインを制作する学習を行うこととします。これに関して、次の1・2に答えなさい。
- この学習の導入では、客観的な視点を持ちデザインすることの大切さを生徒に理解させるために、身の回りにある実例を提示することとします。あなたは、どのような例を提示しますか。実例を1つ挙げ、その実例を選んだ理由を簡潔に書きなさい。
 - 生徒に地域の特産物のパッケージを考えさせることとします。「パッケージデザインを考える上で大切なことは何か」を考えさせるために、教師自身があえて問題点が2点あるパッケージデザインを提示することとします。あなたは、どのような作品を生徒に提示しますか。特産物を1つ挙げた上で提示作品を描くとともに、その作品に反映させた2点の問題点を、パッケージデザインが本来果たす役割を踏まえて、簡潔に書きなさい。
- 3 第2学年において、作品の鑑賞を行うこととします。これに関して、次の作品Aを基に、あとの1・2に答えなさい。

作品A



作品名 [六十余州名所図会 伯耆 大野 大山遠望]

- 1 作品Aに関して、次の浮世絵版画についての文章中の(ア)～(エ)にあてはまる最も適切な語句をそれぞれ書きなさい。

浮世絵版画は、江戸時代に発達した風俗画である。浮世絵版画は、木版で印刷した本の挿絵が、やがて木版画一枚絵の「墨摺絵」として独立したことに始まった。以後、「丹絵」、「漆絵」と進み、紅と緑を主張色とする「紅摺絵」が誕生した。さらに、明和期(1764～1772)になると、多いものでは10色以上もの色版を用いた多色摺の版画が作られるようになり、それらの版画はその美しさから「(ア)」と呼ばれた。浮世絵版画の制作工程は、出版社にあたる版元の制作の指示により、絵師、(イ)、(ウ)が工程を分業で行った。Aの作品は、情緒のある風景描写を得意とした絵師[(エ) 1797～1858]の作である。

4 中学校 美術科 問題用紙

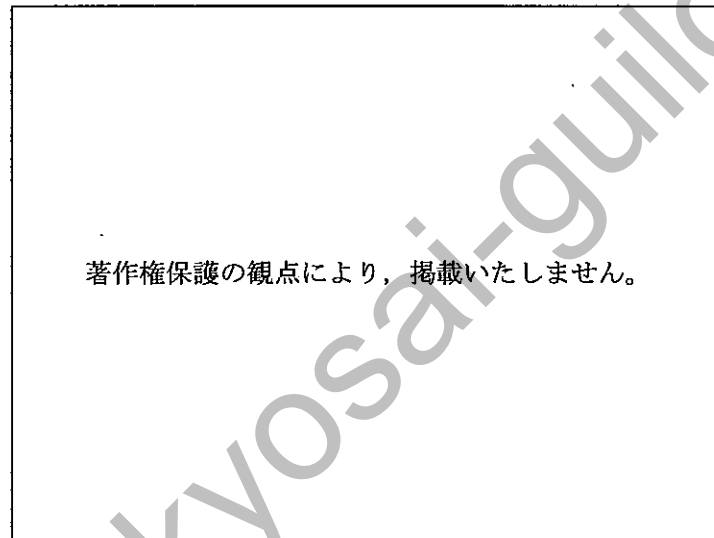
(3枚のうち3)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

- 2 作品Aと、それと同時代にフランスで描かれた作品Bとを比較し、それぞれの作品が描かれた時代背景やこの時代のそれぞれの国の美術文化のよさや美しさを感じ取り、見方や感じ方を深めることができるようにするためには、どのような指導を行いますか。簡潔に2つ書きなさい。

作品B



作品名 [落穂拾い]

作者名 [ジャン=フランソワ・ミレー 1814~1875]

- 4 平成29年3月告示の中学校学習指導要領 美術 各学年の目標及び内容 について、次の1・2に答えなさい。
- 1 次の文章は、〔第1学年〕 内容 A 表現 (1) を示したものです。文章中の(a)~(c)にあてはまる適切な語句をそれぞれ書きなさい。

(1) 表現の活動を通して、次のとおり発想や構想に関する資質・能力を育成する。

ア (a) や (b) などを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に(c)を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。

- 2 〔第2学年及び第3学年〕 内容 A 表現 (2) ア (ア) には、「材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すこと。」とあります。生徒が自分の表現方法を模索し、追求できるようにするためには、指導に当たってどのようなことに留意する必要がありますか。簡潔に3つ書きなさい。

- 5 ロープを持った手を想像し、それを立体感や質感が表れるように、鉛筆で陰影をつけてデッサンしなさい。

4

中学校 美術科 解答用紙

(4枚のうち1)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問題番号		解答欄
1	(1)	
	(2)	
	(3)	
	(4)	
	(5)	
	(6)	
2	(1)	
	(2)	
	(3)	
3	(1)	
	(2)	
	(3)	
	(4)	

4

中学校 美術科 解答用紙

(4枚のうち2)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問題番号		解答欄	
2	1	実例	
		理由	
	2	特産物	
		提示作品	
		問題点	

4

中学校 美術科 解答用紙

(4枚のうち3)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問題番号		解答欄		
3	1	(ア)		
		(イ)		
		(ウ)		
		(エ)		
	2			
	4	1	(a)	
			(b)	
(c)				
2				

4

中学校 美術科 解答用紙

(4枚のうち4)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問題番号	解答欄
5	Kyosai-guild

中学校美術科採点基準

2枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 [例]		採 点 上 の 注 意	配 点	
1	1	(1)	(イ)		各 2 × 6	
		(2)	(ア)			
		(3)	(ウ)			
		(4)	(カ)			
		(5)	(オ)			
		(6)	(ク)			
	2	(1)	混ぜる色料の色数を増やすほど明度や彩度が低くなり、黒色に近づくこと。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各 3 × 3	29
		(2)	・色相環の向かい合う位置にある色のこと。 ・混色すると無彩色になる2色のこと。 ・ある色を見つめていて、取り除くと、残像に見える色のこと。	1つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。		
		(3)	凹凸のあるものに薄い紙をあて、鉛筆やクレヨンなどでこすって形やテクスチャーを写し出す技法のこと。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。		
	3	(1)	(オ)		各 2 × 4	
		(2)	(イ)			
		(3)	(エ)			
		(4)	(カ)			
2	1	実例	非常口誘導標識	実例と理由が対応しているものだけを正答とする。 問いを正しくとらえていれば、内容は異なってもよい。	6	
		理由	・言語が通じない人たちにも、緊急時に逃げ出すための出口の情報が簡潔な形と色の組合せで分かりやすく、直感的に正確に意味が一目で伝わるようになっているため。 ・標識は、多くの他者を対象としているため、社会性や客観性の重要性を理解することができるため。			
	2	特産物	次の2点を踏まえて、提示作品を描くとともに、問題点として示していること。	問題点が2つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。 提示作品と問題点が対応しているものだけを正答とする。	34	
		提示作品	・伝える対象が特定の人を想定しているもの。 ・包む特産物の特性を生かしていないもの。 ・特産物を連想させる形や色になっていないもの。 ・特産物が何であるかを明確に示さず、中身の魅力が伝わらないもの。			
		問題点	・開けやすさや、持ち運びやすさなどの工夫がなく、扱いにくいもの。 ・特産物が壊れないように保護されていないもの。			

中学校美術科採点基準

2枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 〔例〕	採 点 上 の 注 意	配 点		
3	1	(ア) 錦絵 (イ) 彫師 (ウ) 摺師 (エ) 歌川広重	東錦絵 もよい。 摺師 もよい。 彫師 もよい。 安藤広重 もよい。	各 2 × 4	38
	2	<ul style="list-style-type: none"> 相違点や共通点を調べるなどして把握しながら、その時代における人々の感じ方や考え方、生き方や願いなどを感じ取らせる。 国や地域、民族によって表現方法や造形感覚に相違があることに気付かせた上で、美にあこがれる人間の普遍的な心情など、その共通性にも目を向けさせ、それぞれの作品のよさや美しさなどを味わわせ、その特質を把握させる。 日本独自の美意識や他国の美術文化のよさや美しさを感じ取り、美術を通じた国際理解と美術文化の継承と創造について考えさせる。 先人の作品から学ぶことの意味と、自己の価値観と生き方を結び付けて考えさせたり、対話を通じて自分自身と先人との関わりだけでなく、他者や自然、社会との関わりなどから考えさせたりする。 その時代の生活や社会の状況、信仰や人生観など、人々の精神的背景に裏付けられつつ形成されてきた日本の美術について理解させた上で、他国にもそれぞれの歴史や気候風土を背景として形成された特有の美術文化があり、発展していることを理解させる。 それぞれの作品の価値観が、その時代や地域のみに限定された独立したものとして捉えるのではなく、現代にも息づいていることに気付かせる。 	2つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば表現は異なってもよい。	30	
4	1	(a) 感じ取ったこと (b) 考えたこと (c) 主題		各 5 × 3	45
	2	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自分の表したいことを見付けられるように題材の設定や指導方法の工夫をすること。 多様な表現方法を保証し、生徒が表したいことをこれまで学んだことなども生かしながら具体的な形にしていく中で、生徒自らが感じた必要性から工夫が行われるようにすること。 様々な表現方法や材料の生かし方などを学ばせること。 描いたりつくったりしながら偶然にできた表現の効果を捉えて生かすことや、これまで体験した材料や用具の特性を組み合わせて用いることができるようにすること。 	3つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	30	
5	次の点に留意して描いていること。 ○ 形を正確に捉えて表現していること。 ○ 鉛筆の濃淡によって立体感を表現していること。 ○ 鉛筆の濃淡によって質感を表現していること。 ○ 画面にバランスよく構成していること。		各 1 2 × 4	48	